田中桜子　紹介文

1959年に函館市に生まれる。社会言語学者。先住民族教育者。歴史家。認定行動分析士博士BCBA-D。両親はともに歯科医師で、障害歯科に北海道でも早くから取り組み、我が国有数規模の知的・発達障碍児者の受け入れ施設「渡島学園」（現在の社会福祉法人侑愛会）の発足時からの検診医を長年つとめた。父はアイヌ民族のルーツを持つ。母方の曾祖父母は愛媛県と香川県からの北海道への入植者で、曾祖母の兄弟に日本語で最初の讃美歌の作詞者、松山東雲学園の創設に尽力した松山市名誉市民第3号のクリスチャン教育者西村清雄や、正岡子規に和歌を教えた西村正雄（井出真棹）、そして曾祖母の叔父に道後村村長で道後温泉本館を建てた伊佐庭如矢（いさにわゆきや）がいる。歌人、国学者で京都皇学所（学習院大学の前身）の助教を勤めた松山藩の家老西村清臣は、曾祖母の祖父にあたる。また、母方の祖母は香川県の十河（そがわ）氏にルーツを持つ。

18歳まで函館で生活、21歳で単独でカナダへ渡航し後に永住権取得。住み込みの家事手伝いをしながら夜学で英語を学ぶ。当時は脚本家、演出家を目指していて、シェークスピアを原書で読むのが夢であったが、1984年にトロント大学に入学し社会言語学、文化とコミュニケーション研究と出会い、方向転換する。ESL教師の資格を取得後、家庭教師として英語を教える。ロナルド・ウオードハフ教授、アイブン・カルマ―教授、アンソニー・リーマン教授、[川本皓嗣教授（前大手前大学学長）らに師事。トロント大学卒業後、1991年に](https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKEwiT78T34p-EAxXzslYBHaZuANsQFnoECA4QAQ&url=https%3A%2F%2Fja.wikipedia.org%2Fwiki%2F%25E5%25B7%259D%25E6%259C%25AC%25E7%259A%2593%25E5%2597%25A3&usg=AOvVaw1rMInKb7BYvJdT_X0xEvbH&opi=89978449)

ブリティッシュ・コロンビア大学の大学院に入学。成績優秀者に与えられる奨学金を受け、助手、非常勤講師として教鞭をとりながら、フリーランスの法廷・医療・ビジネス通訳、翻訳業務にも携わる。1993年修士号取得。1997年12月、右足大腿骨の腫瘍摘出手術後、翌年4月に3男を出産、車椅子生活を含む2年間の闘病とリハビリ生活を克服して2000年アイヌの口承伝承と信仰の変遷をテーマにした論文で博士号取得。カナダ日本文学賞受賞。世界的な中国民間信仰研究の大家ダニエル・オーバーマイヤー教授に師事、外部審査員は世界的な日本史研究家のウィリアム・ウェイン・ファリス教授。2000年～2002年までサイモンフレーザー大学にて、ポスドク研究員として教育学部に在籍。量子力学を音楽療法に導入し独自な理論を打ち立てたことで世界的に知られる音楽療法家、先住民族教育者のキャロリンＢケニー博士に師事。（「フィールド・オブ・プレイ－音楽療法の「体験の場」で起こっていること」近藤里美訳の著者）

1990年代にはロシアの研究者との交流が始まる。1994年にウラジオストックで開かれた米ロ共催の民族学、人類学学会、1998年にモスクワで開かれたロシア科学アカデミー共催の伝統医療の国際学会に招待参加。1999年にはハワイで開催された先住民族教育会議WIPCEにアイヌ民族として参加。

研究者としての道のりを歩んでいる最中に3男が自閉症の診断を受けたため、知人のサポートを受けながら自閉症の行動介入を学び始める。2009年、マサチューセッツ大学ローウェル校において自閉症行動介入の大学院課程（オンライン）修了後、バンクーバー市のローレルビヘービアサポートにて行動コンサルタントとして自閉症児の早期集中介入治療を行うほか、政府公認のコンサルタントとして18歳以下の様々な障害を持つクライアントに家庭訪問型のサービスを提供する。2011年、米政府が認定する行動分析士資格認定協会（BACB）が発行する最上級資格であるBCBA-Dを取得。継続してカナダ、ブリティッシュ・コロンビア州の政府登録自閉症行動コンサルタントとして早期集中介入治療に従事する。

2012年9月、家庭の事情により函館市に帰郷。BCBA-Dとして事業所のコンサルティング及び専門家育成に従事。現在、日本国内に在住する4名のBCBA-Dのうち2名の指導にも関与する（2024年1月時点）。2012年から2017年まで米国の国際行動分析学会ABAIのSIG特別研究会Multicultural Alliance of Behavior Analysts (“MultiABA”)の代表を務め、多様性への対応を啓発する。2015年に米国機関BACB行動分析士認定協会の認可を得て、日本で初めて国際資格BCBA/BCaBA取得用コースワークの責任者としてコースを開発し、提供するが、BACBはのちに英語圏のみに活動を自主制限することとなり、日本からも撤退した。この頃、国際行動分析学会にてシンポジウムを毎年提供。ジョン・マブリー博士、マーク・サンドバーグ博士、マリア・デ・ルルデス・パソス教授、ロバート・ドロヒー氏、レイモンド・ワイズマン教授らと言語行動理論と言語学の学際の可能性についての探求を行った。また国際行動分析学会の会長を務められたことのあるウィリアム・ヒューワード教授ご夫妻との親交もこのころから始まる。

2018年、非営利活動法人「一般社団法人アジア・パシフィックＡＢＡネットワーク」設立。（現在札幌に事務所を置く）。田中のほかに２名のBCBA資格保有者も常勤講師として指導するほか、またゲスト講師として世界各国の著名な行動分析家10名以上を揃え、国際基準の専門家育成を開始する。さらに、2019年にシンガポールにNPO法人アジア・パシフィック・コンソーシウムも設立し、共同代表として現地の日本人コミュニティにABAのサービスを提供する。

2021年、北米においてBACBと類似のサービスを提供する機関であるQABAの国内初のプロバイダとして認定される。同時期にBCBAの発行機関であるBACBが英語圏のみのサービスへ切り替えを発表したため、日本国内でのBCBA取得の道は事実上絶たれる見通しとなるが、それと同等レベルの国際資格であるQBAを日本国内でも取得可能な道を拓く。同資格は日本語での受験が可能であり、現在までに現役医師、教師はじめ多くの受講生が受講している。QABAはすでに我が国で公的に導入されているTEACCHとの親和性が高いため、関心度も高いと考える。

応用行動分析学の大きなビジョンの一つである「持続可能な社会のため」の社会変革の取り組みとして、国連平和大学の置かれた、国連SDGsの先進国として知られるコスタリカ共和国にマイクロ農園を確保し、国立アテナス農業大学と提携し、日本人留学生の短期留学プログラムを設立した。2018年には現地での国際シンポジウムと、JAPANフェスをアテナス市で開催、名誉市民となる。

家訓：「百までもが真似できないものをつくってこそ、初めて物をいう」

－道後温泉設立者、伊佐庭如矢爺

モットー：「アイヌ、ネノアン、アイヌ（人間らしい人間になること、最も高いところにおられる神は人間の匂いがするというアイヌの伝承から）」

所属機関

QABA認定コースプロバイダ

QABA認定ACEプロバイダ

BACB ACEプロバイダ

QABA国際基準制定委員会委員（米国）

QABA大学カリキュラム設立準委員会委員（米国）

WBADA世界行動分析デー連盟理事（米国）

一般社団法人アジア・パシフィックＡＢＡネットワーク代表理事（日本）

NPO法人アジア・パシフィックＡＢＡコンソーシウム（シンガポール）共同代表

ABA Speaks名誉代表

日本言語学会会員

日本心理学会　正会員

つみきの会　特別会員

日本認知行動療法学会正会員

ABAI国際行動分析学会正会員

株式会社グリーンパティオ代表取締役（日本、コスタリカ）

文学賞受賞歴

1995年　現代詩人アンソロジー賞新人賞　「平和よ　永遠にーヒロシマネバーモア」（同人誌銀河書房主催、故東淵修氏とのご縁）

1996年　日本ファンタジー大賞　準最終候補リスト

　後に「ライラとみどり色のホウキ」として中央アート出版社より出版

2000年　カナダ日本文学賞受賞（カナダ連邦政府Canada Council for the Arts) “The Ainu of Tsugaru”\*未出版

出版物

歴史学、人類学、行動分析学(言語行動)、言語学の分野にて英語で多くの論文を発表の他、スペイン語、ロシア語に訳された論文も有り。

**発表論文**

**（多いので簡略しています）**

2023年9月　国際行動分析学会主催「ジョン・マブリー博士」追悼セミナー特別貴賓ゲストパネリスト

2023年8月　Dialogue on Linguistics and Behavior Analysis　リナ・スリム博士とコラボレーション

2022年10月マサチューセッツ州行動分析学会にて招待講演「行動分析家のための音声学入門」

2020年－ Heilveil, I, and Tanaka, S. 2020. “Ma in Behavior Analysis” Ma in Behavior Analysis (learnworlds.com)

Pacific Coast University

－ February. Invited Speaker, Behavior Momentum India Third Annual Autism Conference.

2019 February. Chair and presenter, “Behavior Science for Everyday SDGs” in symposium, “Building Sustainable Future Together: Japan and Costa Rica”, Universidad Technical National, Atenas, Costa Rica.

2018 September. Chair and presenter, symposium “Towards the public funding for Autism Treatment in Japan” Japanese Psychological Association’s Annual Convention

- August Chair and presenter, symposium “Towards the public funding for Autism Treatment in Japan” Japanese Association for Behavior Analysis Annual Convention

2017 May. Presenter, “Supervisor as a gamechangers,” in symposium Narrative as Behavior, ABAI

annual convention in Denver, Colorado.

* March 2017 Japanese Translation of BACB Ethics Code

2016 July. Chair and presenter, “Dementia: Clinical Contribution from ABA,” in symposium, Behavior Analyst Certification Board (BACB)-Approved University Curriculum for Japan: Tasks and Promises Ahead in Bringing in International Credentialization, 31th International Congress of psychology at Yokohama

2014年9月15日(月)国連HRCパネルイベントのパネリストプレゼンテーション, ジュネーブ

- Tanaka, S. and Togashi K. “Function-Based Behavior Intervention for Children with Autism Spectrum Disorder in Japan: a Pilot Study,” poster presentation at Association for Behavior Analysis Convention in Chicago, Il.

-Hughes-Fong, E., Catagnus, R.M., Tanaka, S., Yip, J., Matsuda, K., & Narang, P. (2014). “Multicultural Alliance of Behavior Analysts: ABAI Special Interest Group,” Poster presented at the Association for Behavior Analysis Convention in Chicago, Il.

-Matsuda, K & Tanaka, S. (2014) “From Social Skills Training to Behavioral Cusps: Aren’t we just having fun,” Symposium at the Association for Behavior Analysis International Conference in Chicago, Il.

2014年3月

「ABAの紹介:自閉症から認知症へ」北海道恵庭市の日本リハビリテーションカレッジで開催されたABAリハビリテーション研究シンポジウム招待講演者

2013 Elizabeth Hughes Fong and Sakurako Tanaka. 2013. “Multicultural Alliance of Behavior Analysis Standards for Cultural Competence in Behavior Analysis,” in International Journal of Behavioral Consultation and Therapy 2013, Vol 8, No. 2, pp. 17-19

-“Evolution of ABA-based Autism Treatment through Canadian multiculturalism” Paper presented at Symposium “Beyond Building-Blocks: Applying Behavior Analysis across the Borders,” ABAI Annual Convention, Seattle, WA.

-2013年7月 岐阜大学で開催された日本行動分析学会年次大会にて開かれたシンポジウムにおいて、認知症患者へのABAの有効活用についてコメンテーターとして発言

2011

-“Bilingual Behavior Intervention for Japanese-Speaking Children with Autism: A Pilot Study Using VB MAPP.” Paper presented at ABAI Annual Convention in Denver, CO. May 30., 2011

- 9月2日～4日セミナー 「言語行動の紹介」3月11日東日本大震災後の家族と子どもたちの積極的な行動支援セミナー 、福島県郡山市緑堀八千園(幼稚園)

2010

 “Bilingual Intervention: Towards an Equation of Language to Behavior.” Paper presented at ABAI annual convention in San Antonio, Texas, June 1, 2010

-9月24日

- 共催・発表 *「ミンナからチガウケド大丈夫?(私の子供は違いますが、彼は大丈夫ですか? )」*自閉症と診断された子どもを持つ日本人家族のためのワークショップリッチモンド、BC. カナダ。

-11月19日 ワークショップ の共同主催者と共同 MC:「 *自閉症やその他の発達障害を持つ個人のための支援と政府サービスへのアクセス」* 在日日本総領事館, バンクーバー, BC.カナダ。

ABA以前からの学術活動【簡略】

2012「故郷は宇宙:アイヌの伝承に学ぶこと」『窓』収録。明窓出版。

2011“Culture and History of the Indigenous People of Northern Japan” and four other entries in *World History Encyclopedia,* Santa Barbara, CA: ABC CLIO.

2005 “Narrative of Hope: An Emergent Discourse Resulting from the Encounter between Canada’s Native people and the Japanese.” In Why Japan Matters! Vol. 2 Joseph F. Kess and Helen Lansdowne eds. Victoria: Centre for Asia-Pacific Initiatives, University of Victoria. pp. 402-412.

2004

“Ainu Shamanism” and “Tsugaru Shamanism” in *Shamanism*: *An Encyclopedia of World Beliefs, Practices, and Culture*. Mariko Nanba Walter and Eva Jane Neumann Fridman, eds. Santa Barbara, Ca: ABC Clio

[www.ecampus.com/book/1576076458](http://www.ecampus.com/book/1576076458)

2003

“Ainu Shamanism: A Forbidden Path to Universal Knowledge,” in Cultural Survival Quarterly Issue 27.2 Cambridge, MA <http://www.cs.org/publications/Csq/csq-article.cfm?id=1667>

2001

 “Sannnai Maruyama, the Origin of the Ainu and the Problem of the Historical Interpretation of 'Japan.'” In Japan in the Global Age: Cultural, Historical, and Political Issues on Asia, Environment, Households and International Communication. Nakamura, M., Ed. Vancouver: Centre for Japanese Research, University of British Columbia. PP.7-14. [www.iar.ubc.ca/centres/cjr/seminars/semi2000/jsac2000/tanaka.pdf](http://www.iar.ubc.ca/centres/cjr/seminars/semi2000/jsac2000/tanaka.pdf)

1999

a. “Returning to Ainumoshir,” a seminar held at the World Indigenous Peoples’ Conference on Education in Hawaii at Hilo, Aia Na Ha’ona iLoko o Kakou: The Answers Lie Within Us, August 1 - 7.

b. “Bringing Home a Dragon: A Spiritual Cartography of Northern Tsugaru,” In Proceedings of the International Congress, Shamanism and Other Indigenous Spiritual Beliefs and Practices, Moscow, Russia June 7-12, 1999: 296-305